

中原中也(山口県。1907・明治40年～1937・昭和12年)
「サーカス」

幾時代かがありまして
茶色い戦争ありました

幾時代かがありまして
冬は疾風吹きました

幾時代かがありまして
今夜^こ此^こ處^ひでの一と^さ般^か盛り
今夜^こ此^こ處^ひでの一と^さ般^か盛り

サーカス小屋は高い^{はり}梁
そこに一つのブランコだ
見えるともないブランコだ

頭倒^{さか}さかさに手を垂れて
汚れ木綿^{やね}の屋蓋のもと
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

その近くの白い灯が
安^{やす}値^すいりボンと息を吐き

観客様はみな^{いわし}鰯
咽喉^{のんど}がなります^{かき}牡蠣^{がら}殻と
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

屋外は真^{やがい}っ^{くら}闇^{くら} 闇^{くら}の闇
夜は^{こうこう}劫劫と更けまする
落下傘奴^{らくかがさめ}のノスタルヂアと
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

「生い立ちの歌」

幼年時

私の上に降る雪は
真綿のようでありました

少年時

私の上に降る雪は
みぞれ
霰のようでありました

十七——十九

私の上に降る雪は
あられ
霰のように散りました

二十——二十二

私の上に降る雪は
ひょう
雹であるかと思われた

二十三

私の上に降る雪は
ひどい吹雪とみえました

二十四

私の上に降る雪は
いとしめやかになりました・・・

さんとうか
種田山頭火（山口県。1882・明治15～1940・昭和15年）
そうもくとう
「草木塔」より

7 ふるさとの水をのみ水をあび

16 うどんそな供えて、母よ、わたくしもいただきまする

17 鉄鉢てつはつの中へも霰あられ

27 生死しょうじの中の雪なかふりしきる